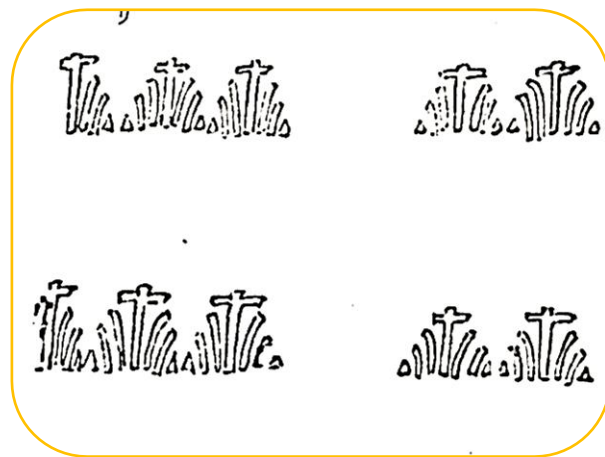


八幡宮の神人(じにん)の中に神宝所神人がいました。神宝所神人とは「本宮内殿や神庫にある神宝を管理し、遷宮や放生会の神幸に際し神宝を唐櫃に納め、御旅所への行程を携え持つ」(出口修さんの資料から)役務をこなす人たちで 19 人いました。白革(鹿皮をなめして作る)を科手町の職人が作って、そこに菖蒲の花、草木駒などを型染めして、それを武具にし將軍家に献上していたと前回書きました。上に書いた神宝所神人がその白革の職人を配下においていたようです。京都の被差別部落の職人がこの白革を扱おうとして、論争が起こりました。白革が不足するのが明らかで、科手の職人は被差別部落の職人が白革を扱うのはおかしいと京都町奉行所に訴えたそうです。自分たちは八幡宮の鎮座以来の神人で免許された神職家と。白革の独占が公儀により承認された史実があるようです。



(菖蒲の図柄)

- ① 日時 2025年6月11日(木)10時～
- ② 講師 出口修さん
- ③ 参加費 100円

八幡まるごと館/八幡市男山松里12-20 (TEL&FAX) 07

5-983-3664

(E-MAIL) yawata@marugotokan.net 作られた

ホームページは <http://marugotokan.net/>

又は、八幡まるごと館で検索して下さい



八幡まるごと館は街行く人のだれもが自由に立ち寄れる“地域サロン”です。休館日は毎週火曜日全日と土・日午後です。